

第2回福岡市ヨットハーバーに係る指定管理者選定・評価委員会 議事要旨

○日時：令和6年9月12日（木） 15時30分～17時30分

○場所：福岡市港湾空港局局議室

■審議事項 応募書類の選考(審議、採点)

○経営基盤について

<財務専門家の委員より応募団体の経営基盤について説明>

【委員】

- ・グループ2は安定性が高いと判断できる。
- ・グループ3は構成団体に財務状況が懸念される団体が含まれるものの、グループ全体としては問題ない。
- ・グループ1については、構成団体について、提出された資料を見る限りでは、財務内容に懸念点がある団体が含まれている。また、財務内容に関する情報が不足しており、判断が難しい団体が含まれている。

【委員】

応募団体にはサービス業の企業が多く、コロナ禍の影響を受けているのではないかとと思われる。コロナ禍の期間が含まれている過去3年間の財務諸表では判断が難しいと思うが、どのように考えるか。

【委員】

赤字の理由がコロナ禍によるものなのか数字だけでは断定できないが、分析にあたってはコロナ禍の影響を受けたのか、また、コロナ禍から回復できているのかという視点でも確認し、数字から判断できる点で評価を行った。

【委員】

グループ内の構成団体に損失が生じた場合、他の団体が補填し合うものなのか。

【委員】

あくまで経営は各社ごととなるため、損失が出た会社に資金を融通するということはいきない。

○事業計画書・収支計画書について

<管理運営方針>

【委員】

本質的な部分はどのグループも大きく変わらないと思われる。

【委員】

グループ1は「セーリングスポーツの発展」、グループ2は「付近に経営するマリーナを有する強み」、グループ3は「多様な自主事業の展開」という点に、それぞれ力を入れている印象を受けた。

【委員】

グループ3は小戸公園との連携も見据えているとの印象を受けた。

管理運営方針については、どのグループも特に問題はないかと思われる。

<管理体制>

【委員】

提案書からは読み取れないが、各グループのコンプライアンス遵守意識について確認する必要があると思われる。

【委員】

提案書を見ると、どのグループも現地スタッフについては、現在の職員を引き続き雇用することを想定しているように思われる。そうすると、現場の体制は大きく変わらない。

【委員】

委員には利用者の代表も含まれているので、利用者目線で気になる点があればヒアリングの際に確認していただきたい。

<施設の効用を最大限発揮する管理運営>

【委員】

「施設の有効活用への取組み」の項目では、グループ3は他でも実績がある事業をヨットハーバーにも取り入れようとしている。

【委員】

夜間の警備については、専門性の高い業者が関われば安心できる。

【委員】

「危機管理・緊急時対応について」の項目に関して、グループ2は実際に海上で事故等が起こった際、構成団体間の連携に強みがあると思われる。

【委員】

グループ3は「災害時の初動体制」として「副ハーバーマスター」が位置付けられているが、人員配置の提案には「副ハーバーマスター」の記載がなかったため、ヒアリングの際に確認したい。

【委員】

事故発生時等における危機管理の記載について、グループ1及び3は研修や防止対策について言及していたが、グループ2はマニュアルに従った対応を行う旨の記載に留まっていた点が気になった。

【委員】

危機管理については、ヒアリングで具体的な内容を確認することとしたい。

<増収及び管理経費の縮減等>

【委員】

定休日を設けるという提案があり、経費縮減にもつながるため個人的には面白い提案だと思ったが、定休日について市としてどのように考えるか、参考に伺いたい。

【事務局】

現状、条例で定める休館日以外の定休日を設けるということは想定していない。

【委員】

グループ1はレンタルヨット事業の提案をされていたが、本当に実現可能であれば増収につながる可能性はあると思われる。

【委員】

ヨットハーバーをヨットユーザー以外の一般の方にも広く利用してもらうような提案があるが、ヨットハーバーの利用に支障はないものなのか。利用者代表委員のご意見を伺いたい。

【委員】

市の施設であるため市民の憩いの場となることは良いと思うが、一方で警備面や管理面はしっかりと行う必要があると考える。

【委員】

ヨットユーザー以外の色々な人が利用して良いと思う。ただ、利用者が増えれば、管理体制の検討が必要だと考える。

また、セーリングスポーツの施設という本来の機能が損なわれないようにする必要がある。

【委員】

賑わい創出に係る取組について幅広く提案されており、良い試みであると思うが、実現性があるかが重要である。

<収支計画>

【委員】

収支計画を見ると、業務にかける金額の規模感がグループ毎に特徴があると思われる。例えば、屋内・屋外清掃業務について、他と比べてかなり金額が小さいグループがある。

【委員】

清掃業務には力を入れてもいいのではないかと考える。

【委員】

収支計画については、記載されている数字で本当に実行可能であるのか、ヒアリングを通して再度確認する必要があると考える。